

## 【学位論文審査の要旨】

### 1. 論文題名

Examining minimal important change of the Canadian Occupational Performance Measure for subacute rehabilitation hospital patients

### 2. 審査所見

#### 1) 論文審査

副論文は、COPMの尺度特性に関するシステマティックレビューで、これにより、COPMが尺度として十分な質が担保されているとは言えない点を明らかにした。またその要因の一つにレスポンスシフトによる評価バイアスがあげられ、それを回避する方法の開発が必要とされた。

主論文は、COPMのMCIを検討したものである。研究デザインにはAnchor-based methodが採用され、Anchorは対象者の主観的変化を反映させたものとなっていた。COPMの評定には、5W1H法を用い、副論文で明らかとなったバイアスを最小限に抑制していた。MICの算出方法は人数比調整MIC等であり、統計的に厳密な値が得られていた。倫理的配慮やCOIにも問題がなかった。結果では、MCIがだいたい2点という結果を得て、作業療法研究に多い比較群をもたないデザインでも効果検証が可能となり、十分な新規性と作業療法へのレリバンスが認められた。

回復期病棟の入院早期のデータがどこまで汎化できるのかといった課題もあるが、博士論文としてのレベルには十分達していると判断した。

#### 2) 最終試験

質疑応答では、「5W1H法を使うとこれが全く別の尺度になるのではないか？」との質問に、「すべてそのようにすべきだと考えているのではなく、臨床研究などのより厳密なデザインが必要な時に取り入れるとことを想定している」と答える等、質問に適切に答えるとともにアドバイスにも真摯に耳を傾けていた。また、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力ともに十分で、関連した領域の知見についても深く理解していると考えられた。

### 3. ディプロマ・ポリシーに基づく評価

学位論文審査基準の項目 (博士)	評価 (合・否)
作業療法の発展に寄与する内容である	合
研究目的が明確で、適切な研究方法が選択されている	合
新規性があり、論理的に記述されている	合
十分な基礎学力と専門的知識を有している	合
適切な倫理的配慮がなされている	合
主・副論文が査読付き学術原著論文として公表・公表確定	合

十分な語学力やコミュニケーション能力を有している
--------------------------

合
---

#### 4. 審査結果

本論文が博士論文に値し、申請者が博士(作業療法学)の学位を授与するにふさわしい専門的知識と研究能力を備えていると判断し、合格とした。